

家族社会学におけるサーベイ実験の可能性

五十嵐彰 (大阪大学)

社会科学、特に政治学において近年実験手法の発展が目覚ましい。その背景の一つには、ここ数十年にわたり浸透してきた因果推論の問題がある。二変数の関係が因果関係であるというには、観察データを用いた分析では強い仮定を満たさなければならない。他方で実験手法は、処置がランダムに与えられているといった、基本的でありながら観察データで満たすことが非常に困難な仮定を比較的簡単に満たすことができる（当然ながら実験ごとに満たさなければならない仮定が存在するが）。また、近年急速に発達した Web 上の調査により、紙の調査で実施するには困難な調査でも容易に実施することができるようになった。こうした背景から、サーベイ実験、特に本報告で紹介するコンジョイント分析やリスト実験の理論的な整備とその応用研究が広く普及している。実験手法発展の現代の中心地は政治学であるが、社会学にも手法の浸透は見られており、近年では報告者の専門である移民研究をはじめ、階層研究などにも広がっている (e.g., Schachter, 2016)。翻って家族社会学では、少なくとも今回発表する2つの実験手法が十分に浸透しているとは言い難い。 *Journal of Marriage and Family*、*Journal of Family Issues*、そして *Demography* では、0 から数件程度しか用いられた実績がない。しかしながら、コンジョイント分析やリスト実験は家族社会学で研究されるトピックとの親和性が高く、従来の手法では得られなかった知見を得ることができると考える。

本報告では、報告者の共著である『不倫—実証分析が示す全貌』において用いた2つの実験手法であるリスト実験とコンジョイント分析を、実践例を交えながら紹介する。リスト実験とは、聞きにくいセンシティブな内容を尋ねる方法であり、センシティブな行動や意見をもっている人が何割程度いるのかを割り出すことができる。リスト実験の応用例として、一般的な調査で行われる直接質問による回答割合と比較し、人々がセンシティブな行動や意見を隠そうとしているのかを検証することもできる。コンジョイント分析は架空の人物や物事（多くの場合は一対）を提示し、それらに対する評価や選択を尋ねる手法である。報告者は Web 調査を用いてリスト実験を応用し、日本においてリスト実験に対する不倫経験の回答と直接質問に対する回答とが統計的にほぼ変わらないこと、つまり人々は自身の不倫経験を Web 調査上では隠そうとしないことを明らかにした。おそらく一般的な調査において不倫経験を尋ねたとしても、正直な回答が得られ、回答誤差が少ない分析ができると予想できる。次に、コンジョイント分析を用いて、どういった人の不倫であればより強く非難されるかを検証した。分析の結果は多岐にわたるものの、回答者が女性の場合には男性の不倫をより強く非難すること、そして不倫をした人が政治家の場合は強く非難されるが、芸能人の場合だとそこまで非難が強くないことが明らかとなった。

これらの実験手法は不倫だけでなく、広く家族社会的な関心にも応用できるというのが本報告の主要なメッセージである。例えば好ましい配偶者像 (Aichholzer, 2024) の検証や中絶経験 (Moseson, Gerdt, Dehlendorf, Hiatt, & Vittinghoff, 2017) などに応用されている。好ましい配偶者像は、従来の観察データを用いた研究などでは実際の配偶者選択という、機会に強く制限された分析しかすることができなかつたが、コンジョイント分析を使うことで選好を取り出した研究をすることができるようになる。中絶経験は、特にアメリカにおいてタブー視されている場合も多く、検出のためにリスト実験のような工夫が必要となってくる。

参考文献

- Aichholzer, S. (2024). Partner preference in intermarriage in Japan: Insights from a conjoint survey experiment. 第76回数理社会学大会.
- Moseson, H., Gerdt, C., Dehlendorf, C., Hiatt, R. A., & Vittinghoff, E. (2017). Multivariable regression analysis of list experiment data on abortion: results from a large, randomly-selected population based study in Liberia. *Population Health Metrics*, 15: 1-8.
- Schachter, A. (2016). From “different” to “similar” an experimental approach to understanding assimilation. *American Sociological Review*, 81(5), 981-1013.

(キーワード: サーベイ実験、リスト実験、コンジョイント分析)